日日新聞　2013.6.16(日)　熊日　（第3種郵便物認可）

健軍にも〝サッカーの神〟

熊本市の八咫烏（やたがらす）神社

日本神話に登場する3本足のカラス「八咫烏（やたがらす）」。日本サッカー協会のシンボルマークにも使われ、サッカーの神様としても信仰を集めている。その八咫烏を祭る神社が熊本市東区健軍にもある。地域住民が代々守り続け、サッカーファンの間でも〝知る人ぞ知る〟聖地となっている。

八咫烏神社を守り続けている地域の氏子たち＝熊本市東区の同神社

3本足カラス祭る　ロアッソ勝利願う聖地に

八咫烏は神武天皇の東征の際、熊野（現在の和歌山県周辺）から大和（現・奈良県）まで先導したとされる。和歌山県の熊野本宮大社など「熊野三山」では、神の使いとして祭られている。

日本サッカー協会は、1931年に八咫烏をシンボルマークに採用。日本にサッカーを紹介した東京高等師範学校の学生・中村覚之助（1878～1906年）も和歌山出身で、熊野三山には日本代表選手も参拝に訪れている。

健軍の八咫烏神社は健軍神社（東区健軍本町）の末社の一つ。同神社や氏子の光永和博さん(75)によると、南北朝時代の「健軍陣内城」の城主・光永惟富の子孫が、14～16世紀ごろ建てたという。

八咫烏が祭られたことについて、同神社は「平安中期から室町にかけて熊野三山に参拝する『熊野詣で』が全国で流行。熊本でも嘉島町の浮島神社など熊野の神を祭る神社が造られている」と、その背景を推測する。

住宅街に囲まれた鳥居をくぐると、約260平方㍍の境内に建立時期は不明という銅板ぶきの本殿と、80年前に建てられたという小さな拝殿。氏子4軒が毎年12月に例祭を開いているほか、地域のもちつき大会なども開かれている。

「家内と地域の安全だけでなく、日本代表やロアッソ熊本の必勝を祈願している」と光永さん。「ロアッソファンが試合観戦前に参拝にくることもある。熊本にも八咫烏が祭られていることを知ってもらいたい」と話していた。（池田祐介）